



TITLE:

花山だより

AUTHOR(S):

花山坊

CITATION:

花山坊. 花山だより. 天界 1934, 14(157): 246-246

ISSUE DATE:

1934-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165524>

RIGHT:

花 山 だ よ り

2月の日食も無事に終つて、3月上旬には隊員諸氏が歸つて來られた。柴田先生は5日夜歸洛、6日朝より山に來られたので、7日に談話會を開き、日食土産話を聞き、お土産の椰子の實の水に臺員一同舌鼓を打つた。翌8日にはコロン博士を手傳つた平井君の土産話を聞く。尙此の日は正門附近で松竹キネマのロケーションあり、圓屋根を背景にチョン鬘が切り結ぶあたり甚だ珍景である。此の頃には日食に行つた機械類も歸つて來て、上島、柴田兩先生は手入れ其の他に忙がしい。12日には日食觀測隊員上田、渡邊兩先生の案内で、ジョンソン、コロン兩博士來臺、山本先生の案内で參觀する。14日には小倉伸吉博士が來臺參觀された。

3月始めから高城、公文兩氏に依つて無線室内配線が根本的に改造され、且つ昨年末新設された電池室からの配線用スイッチも配列される等、此の配電板は非常に整頓され、完成の暁は大いに能率がよくなる筈である。3月始めから色々準備されてゐた所の、參觀者に對する注意事項記入の標柱や掲示板は月末には殆んど完成された。3月12日は強風が吹き、軍艦友鶴が遭難した日であるが、此の風で、大ドームの屋根板が十五枚程落下して了つた。愈々昭和八年度も終つて、今まで學生だつた荒木、堀井兩氏は學士試験に合格、新らたに理學士となられた。(1934. 3. 31 星見山人)

去る4月11日、花曇りの空ではありましたが、暖かで、何となく室内に居るのが惜しい日でしたので、花山では急にピクニックをする相談が成り立ち、總勢十人、おひる御飯の後、大急で机上进行を整理し、飛び出しました。山の下の、折から通りかゝるタクシー車を交渉し、二臺に分乗して、京津國道をひた走りに大津の三井寺へ行きました。残念にも大津は未だ櫻が咲いてゐませんでしたが、御かまひなく、花見氣分でベンケイの力餅を平げ、それから園城寺や疏水あたりを散歩し、遂にビワ湖岸の大學臨湖實驗所を襲撃し、所員近藤康二氏の御世話で、ボートで漕ぐやら、魚を追ひまはすやら、山の人が水邊へ來て珍らしがり、大はしやぎ。——日暮れ近く、元の道を又タクシーで歸山しました。龜井氏御手並の寫眞は次號に御紹介します。(花山坊)